

授業改善のポイント

授業改善のポイントとして、各学校の実態に応じて、可視化・継続化・汎用化を視野に入れた工夫が必要です。今回、振り返りで考えてみました。

可視化

例えば、頭の中だけの振り返りにせず、文字に書くなどして見えるようにします。

継続化

毎日の授業で振り返りを実践し続け成果を蓄積します。

汎用化

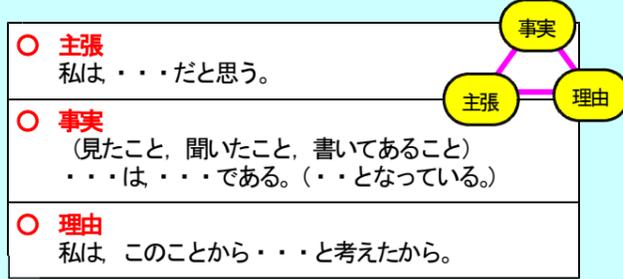
ある教科のある場面だけでなく、様々な授業や学習場面で使えるように方法を工夫するなど汎用的にします。

振り返りの質を高めるための学習ツール（例）

よりよく話したり書いたりすることができれば、振り返りの質を更に高めます。表現力を高め、振り返りの質を高めるための「三角ロジック」と「ペンタゴンロジック」を紹介します。

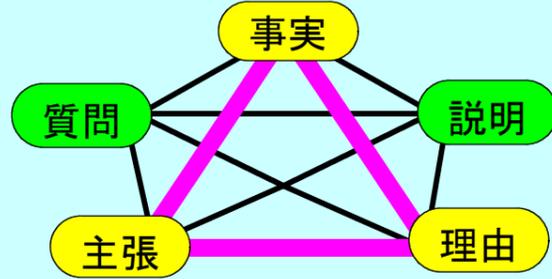
1 「三角ロジック」について

「主張」「事実」「理由」をしっかりとつなげて書く（話す）と相手によく伝わります。具体的な言葉は右の表のようになり、言葉のつながりが見えます。このことは、論理的思考の基礎となる考え方です。



2 「ペンタゴン・ロジック」について

異なる立場の他者から「質問」をしてもらい、再度、自分の考えを「説明」することで、論理的思考力や表現力を高めていきます。



- **質問** (他の考え方、「理由」に対する反論)
確かに・・・という意見もあるかもしれない。
- **説明** (「質問」に対する答え、「主張」へつながる)
しかし、・・・だと考える。だからこそ・・・すべきだ。

「質問」「説明」まで加わると、学び合いや振り返りで、話し合いがとて充実しそうですね。



参考：鹿児島大学 原田義則准教授 講演資料

振り返りを効果的に行うための学習ツール（例）

振り返りをどのようにさせるのかは、様々な方法が知られています。ここでは、効果的に振り返るために「ダイヤモンド・サイクル」を紹介します。

1 「ダイヤモンド・サイクル」

「振り返り」の4つの観点を、右図のように示すことで、自分の学びの変容を自覚させることができます。



参考：鹿児島大学 原田義則准教授 講演資料

2 4つの観念の具体

- **理解・内容**
分かったこと・思ったこと
分かったことやそれについて思ったことを書きます。
- **方法・活用**
できるようになったこと・活かせること
できるようになったことやそれを活かせることについて書きます。
- **納得** 友だちの考えに「なるほど」
友だちの考えに「面白い考えだな」などと感じたことを書きます。また、その考えなどに触れ、自分の考え方がどのように変わったかも書きます。
- **追及(疑問)** もっと知りたいこと
新たな疑問などを書きます。

3 振り返りカードの例

振り返りカード(1年)組 名前() 単元() 時()

振り返りタイム
1 書く(1分)
2 みんなで発表(4分)

Q&A

Q1 右の図の特徴は、何ですか。

A1 大隅終末ベーシックリーフレットで示したものに、振り返りの部分を加えました。

- 【参考資料】
- 大隅終末ベーシックリーフレット2 (平成28年度版)
 - 大隅終末ベーシックリーフレット3 (平成29年度版)
 - 大隅学力向上リーフレット (令和元年度版)

Q2 リーフレットは、追加でもらえますか。

A2 年度初めに、大隅地区の先生方へ1枚ずつ配布しています。コピーして使って結構です。大隅教育事務所ホームページからダウンロードができます。スマートフォンやタブレットで閲覧できます。

<http://www.pref.kagoshima.jp/aa02/kyoiku/jimu/sho/osumi/>



単元(題材)づくりのポイント 単元(題材)など内容や時間のまとまりを通して

導入 (見通し)

- 単元(題材)の課題の明確化のポイント
 - 資質・能力の3つの柱
 - 知識及び技能の習得
 - 思考力、判断力、表現力等の育成
 - 学びに向かう力、人間性等の涵養
- 導入の工夫のポイント
 - 学習意欲が高まるような教材との出会わせ方
 - 学習の見通し(学習計画)
 - 評価規準や評価方法の明確化と共有

展開

振り返り

振り返り(単元・題材途中)のポイント

- 必要に応じて、これまでの学習を振り返る。(単元の1,2次ごとなど)
- これまでの学習の定着を評価問題で把握する。

終末

単元(題材)のねらいの達成状況の確認のポイント

- 「よか問」等の具体的な問題に取り組み、他のデータと比較して捉えましょう。
- 「よか問」等をファイルして、解けない問題には付箋を付けて、粘り強く取り組みましょう。

振り返りのポイント

- 4つの観点で振り返る。
- 振り返りの流れ(例)
 - 書く(事実、主張、理由)
 - 発表(質問、説明等)

一単位時間の授業づくりのポイント 大隅終末ベーシックにもとづいて

導入の工夫・めあての提示

- 導入の工夫のポイント
 - 前時の振り返りを活かす。
 - 事象提示等の工夫
 - 「なぜ」「どうして」「考えてみたい」を引き出す。
- 「めあて」のポイント
 - 「ねらい」(本時の目標等)明確化
 - 「まとめ」の設定
 - 「めあて」の設定
 - 自らに問うような表現など、児童生徒と一緒に立てる。

学び合い活動の設定

学び合いのポイント

- ペンタゴンロジックの活用
- 内容の明確化
- ペア・グループ活動の選択
- ルール・雰囲気づくり
- 児童生徒への問いの工夫

まとめの板書

まとめのポイント

- 自分のまとめ
- 「まず、自分でノートに書きましょう。」
- ポイントを整理した教師によるまとめ
- 次に、(発表をして)学級全体でまとめてみましょう。」
- 自分が書いたものは消しゴムで消さず、書き加えるなどして、まとめを書く。

達成状況の確認

達成状況の確認のポイント

- 「よか問」等に取り組み、「できる」を見取る。
- 個別指導 補充指導

振り返り

振り返りのポイント

- 4つの観点で振り返る。
- 書いて発表する(質問や説明もあるとよい)。
- 毎時間できなければ、数時間ごとに行う。

児童生徒の記入例

小学校2年 国語の授業の振り返り (「方法・活用」の観点から)

わたしができるようになったことは、さんかくロジックをヒントにして、自分の考えがよく伝わるように書くことができました。こんどは、日記を書くときにもつかってみます。

小学校4年 国語・物語文の授業の振り返り (「追及」の観点から)

私は、梶鳩十さんの他の本を読みたいですと思いました。図書室でさがしてみます。他の物語に、学習したことと同じ気持ちの変化があるか読み比べてみたいと思いました。

中学校 新聞づくりに関する授業の振り返り (「納得」の観点から)

私は、たくさん書けばいいと思っていましたが、よし子さんから教えてもらったように、他の情報と関連付けて短く分かりやすく書くことが大切だと思った。

「振り返り」の配慮事項

- 授業をテンポよく進め、振り返りの時間を終末に5分程度は確保しましょう。
- 一単位時間ごとに、振り返りができなければ、単元(題材)の中で、数回の振り返りを行いましょう。
- 振り返りの意義を児童生徒に伝え、主体的に取り組みさせましょう。
- 振り返りの内容を蓄積させ、自分の学びの変容を自覚させましょう。

